



©成田篤彦

▲アブラコウモリが現れた堰 2016年3月8日 木更津市



©成田篤彦

▲陽だまりに咲く菜の花 2016年3月8日 木更津市



かずさの博物誌

アブラコウモリ

～昼コウモリ～

文・写真 / 成田篤彦

2016.3.20

ここは、真昼の台地の堰。土手に菜の花が咲いていた。帰りがけに振り返るとコウモリが堰の上を飛んでいた。

ひらひらと上昇したと思うと、水面に急降下して水を飲み、また舞い上がる。これを繰り返していた。

「これは珍しい。アブラコウモリ（家コウモリ）？ それとも森のコウモリ？」

杉林の横にもやのようにカ柱が立っていた。

「このカを食べているのか？」

「絶好のチャンス」とレンズを向けた。だが、彼の動きはとても速い上に飛ぶ方向が予測できない。

だから、焦点が一瞬あっても私のカメラではシャッターが切れない。そのうち、「切れるだろう」とシャッターを押し続けた。すると何回か切れた。彼？が堰の上にはいたのは約十分三十秒であった。

実は、毎年、小櫃川の川沿いで二〇〇〇三〇〇匹のアブラコウモリが夏から秋の夕暮れ時に飛び回っている。



©成田篤彦

▲カを追うアブラコウモリ「→はカ」 2016年3月8日 木更津市

撮影を試みたが、暗闇の中で動きが速くて全く撮れなかった。

それで、コウモリが真昼に飛ぶ時が撮影のチャンスだと考えていた。



©成田篤彦

▲飛ぶアブラコウモリ 2007年2月8日 木更津市

その時の気象条件は夜明けまで雨で、気温が急上昇したときである。

この日は朝まで雨、昨日の気温十二℃から二十℃に急上昇した。

さて、パソコンで拡大して見るとコウモリの種名はアブラコウモリ。カを追う姿も撮れていた。やはり

カを食べていたに違いない。

また、以前見た天井で休むコウモリの眼は点のようであったが、飛行中は大きく見開いていた。

コウモリの飛膜が透けて見え、腕と指の骨が飛膜を広げているのがよく分かった。コウモリのつばさは弱弱しく、雨などの悪天候の時は飛べないだろうと思った。

さて、俳句集を開くとコウモリを詠んだ句が山ほどあった。その中に、「他人の留守われの不在や 昼蝙蝠 斎藤慎弥」との句があった。

昼間活動するコウモリを昼蝙蝠といっているのだ。いつもながら、俳人の自然観察力には敬服する。

西洋ではコウモリは闇の悪霊だが、中国では縁起がよい動物だ。気味が悪いという人もいるが、上総の水辺周辺で普通に見られる。

一仕事終わって春の夕暮れ時ゆったりとした気持ちで水面を飛ぶコウモリを鑑賞するのもいいのではないだろうか？



©成田篤彦

▲逆さに飛ぶアブラコウモリ 2016年3月8日 木更津市

memo

アブラコウモリ
(イエコウモリ)
コウモリ目
ヒナコウモリ科

頭胴長四〇六センチ。夏の季節。

本州以南に生息。市街地、川原、水田周辺に普通。山間部や民家のないところにはいない。十一月中旬から冬眠に入り三月末には活動する。ユスリカ、ウンカ、ヨコバイなどを食べる。民家に住み着き、糞尿、鳴き声などの被害がでる場合がある。